再度公園

文化祭で工作、自然観察

毎秋恒例の「こうべ森の文化祭」が26日、神戸市北区の再度公園・森の遊び場周辺ログハウス前で催される。六甲山で活動している市民グループなど約30団体のブースが並ぶ。

2002年に始まり、神戸市などが主催。子どもも大人も楽しめる工作や自然観察などの体験プログラム＝**写真**＝が催される。参加費無料（一部有料あり）。景品がもらえるクイズラリー、たこ焼きや焼きそば、どんぶり、クレープなどのキッチンカーも出る。

午前10時～午後３時。雨天中止（前日17時、神戸地方気象台発表で６～12時の降水確率60％以上）。できるだけエコバッグ持参で、子どものみの参加は不可。詳細はイベントHPで確認を。

六甲高山植物園

紅葉と秋の花が見頃

六甲山頂近くの六甲高山植物園は、山麓より一足早い10月中旬から紅葉が見頃を迎える。樹齢およそ100年のドウダンツツジの紅葉＝**写真**＝やブナの大木の黄葉、ロックガーデンに植栽している高山植物チングルマやカエデの仲間など多種多彩な紅葉がある。リンドウやジンジソウ、アシズリノジギクなどの秋の花もお見逃しなく。

「神戸六甲ミーツ・アート2025beyond」（11月30日まで）の現代アート作品も鑑賞できる。土日祝には夜間の「ひかりの森～夜の芸術散歩～」（午後５～８時、受付終了７時、別途料金要）も開催している。

このほか同園のヒメアジサイのドライフラワーやブナの実を使ったリースづくり体験、松ぼっくりツリーづくり体験、原種シクラメン展も楽しめる。

☎078・891・1247

ロコノマド

アート通じて語り合う会

山上の芸術祭「神戸六甲ミーツ・アート2025beyond」に合わせ、シェアオフィス「ロコノマド」ではアートを通して社会や暮らしを考えるアーティストチーム「NL／ROKKO project」の作品を展示している。テーマは「共存共貧altruism, limits and happiness（利他主義、限界、そして幸福）」。山上の植物同士の相関関係を探求している。

11月２日に皆で作品を見て理解を深め、話し合うイベント「小池陽人（大本山須磨寺　寺務長）さんとのお話し会」を催す。11～12時に小池さんの講話、その後、羽釜ご飯とみそ汁を食べ、13～14時に団らん＝**写真**。2000円（ランチ込み）、定員約20人。聞き手は小泉寛明さん（緑青舎取締役）。

☎078・891・0565

六甲大学 ROKKO-SAN DAIGAKU

六甲山にまつわる自然、環境、文学、食などの多彩な催しを大学のカリキュラムに見立てて情報発信する「六甲山大学」。山の旬の情報を通して、六甲山の魅力に迫ります。（原則、毎月第３月曜日に掲載します）

山の四季便り　根岸真理が案内

ねぎし・まり　アウトドア系のフリーライター。1961年、神戸市須磨区生まれ。六甲山を活動拠点とし、六甲山大学広報専門委員。著書に「六甲山を歩こう！」など。

東お多福山 ササ刈り草原再生

研究者や市民奮闘中、2007年から

来月以降も実施 参加者募集

神戸市と芦屋市の市境にある六甲山系の東お多福山（697㍍）。なだらかで優美な山容が、昔の美人「おたふく」を連想させることから名付けられたと言われている。

その山頂周辺から南に山系唯一の草原が広がる。屋根を葺く茅を刈り取る「茅場」として利用されてきた歴史があり、定期的にススキなどを刈り取るため、生物多様性に富む美しい草原が維持されてきた。

しかし、ライフスタイルの変化でその必要性がなくなり、戦後の植林政策などによって1948年に82・9㌶あった草原面積は激減。そしてススキに代わってネザサが増殖、地面を覆いつくし、それ以外の植物がほとんど見られない貧弱な植生になった。

しかし、わずかながら草原性植物が生き残っていることが分かり、ボランティアらが2007年秋から試験的にネザサの刈り取りを実施。地面に日が当たるようになると復活してきた。

10年にはその活動が「ひょうごの生物多様性保全プロジェクト」に認定され、翌年に研究者や市民らでつくる「東お多福山草原保全・再生研究会」が発足。以来、年数回のササ刈りと植生調査を継続し、活動地では元の美しい草原の姿がよみがえりつつある。

筆者は、初期から調査を手伝うなどで関わってきたが、ここ10年ほど参加できていなかった。そこで先月24日に実施されたササ刈りに久しぶりに行ってみた。

登山口バス停に午前10時に集合。準備体操をし、ドビワリ峠まで登る。この日は「外構のササ刈り」という作業で、山頂南東側のエリアに生い茂ったネザサを刈った。草刈り機チームと、鎌・剪定ばさみチームに分かれ、作業を進めていく。昼休憩のあとは、主に片付け作業で刈ったササを集積場所へ運搬。曇り空で涼しい日だったが、実質２時間ちょっとの作業でしっかり汗をかいた。

日ごろ山歩きでよく身体を動かしているのだが、この手の作業は久々で、筋肉痛の予感。しかし、20人余りのボランティアの働きで、びっくりするほどすっきりした広場が出現したのを見ると、疲れも吹き飛び、何とも言えない爽快な気分になった。心地よい疲労と達成感で、夜はいつも以上にぐっすりと眠れた。

今後は11月15日、12月6日、来年3月14日に主要エリアでの全面刈りが予定されている。多くの人手が必要となるため、広く参加者を募集している。企業やグループでの参加も歓迎。

申し込み・問い合わせは、研究会ホームページhttps://otahuku2016.wixsite.com/higashiotafuku

ネザサを刈るメンバーたち＝いずれも東お多福山

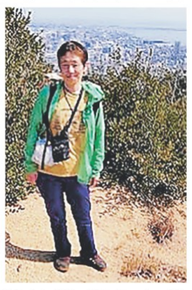
半日の作業後、きれいになった一帯

作業日に咲いていたオミナエシ

10月ごろに咲くリンドウ

総合学部

◆10月のミントサロン【特別編】「みんなのウラヤマ六甲山で健康山歩」　25日11～11時50分、神戸ハーバーランド・カルメニ２階・神戸新聞報道展示室（ＪＲ神戸駅）。講師は山岳ライターの根岸真理さん＝**写真**。山歩きの健康効果と初心者が安全に楽しむ秘けつ、都市に近接する六甲山の楽しみ方について話す。無料。先着50人。予約不要。六甲山大学事務局ミントサロン係☎078・362・2983



◆マウロ・イウラート（バイオリン）**林典子**（ピアノ）**ランチ付きデュオコンサート**　11月22日ランチ11～12時半、公演12時半～13時半、六甲山サイレンスリゾート旧館（六甲ケーブル「六甲山上駅」から六甲山上バス第２系統「六甲山サイレンスリゾート前」）。美しい紅葉とデュオ＝**写真**＝の演奏とランチを楽しむ。ランチはシェフ特製のイタリアンパスタコース（デザート付き）。7500円。定員40人。同施設ＨＰまたは電話で要予約（オンライン予約は３日前の午前中まで。以降は電話で問い合わせ）。同施設☎078・891・0650

文学部

◆七五三まいり　摩耶山天上寺　11月15日を中心に10～11月の毎日、９～17時（受け付け16時まで）、摩耶山天上寺（摩耶ロープウェー「星の駅」下車）＝**写真**。男の子は数え年で３歳（2023年生まれ）、５歳（21年生まれ）、女の子は３歳（23年生まれ）、７歳（19年生まれ）対象。満年齢も可。祈祷料１人7000円（兄弟姉妹は２人で１万2000円、３人で１万5000円）。例年11月上旬から中旬ごろは紅葉が見頃を迎え、家族で秋の散策も楽しめる。予約不要。同寺☎078・861・2684

健康学部

◆爽やかな秋の六甲を楽しむ　11月９日10時半、六甲山上バス「神戸市立自然の家」バス停付近に集合。自然の家―穂高湖＝**写真**＝一周遊道路―天上寺―掬星台の順に歩き、解散14時半ごろ。摩耶山への周遊道路ではウリハダカエデやノブドウなどのつる植物が見られる。天上寺でも境内の植物を楽しめる。300円。予約不要。弁当、飲料水、雨具、観察用具など持参。ハイキングに適した服装で。雨天中止。中止時は前日の19時以降、六甲山自然案内人の会ＨＰ内のお知らせに掲示。同会☎080・2892・0761（19～21時）

催しの日程、内容などは変更される場合があります。お出かけ前に主催者にご確認ください。ホームページhttp://653daigaku.com/

六甲大学 ROKKO-SAN DAIGAKU
六甲山大学・情報凝縮サイト
653daigaku.com
わたしたちは 六甲大学 の活動を応援しています
協賛企業
Daiwa House
想いをかたちに 未来へつなぐ TAKENAKA
六甲山観光株式会社 KOBE Mt.Rokko ART & TOURISM Co., Ltd.
（順不同）
【実行委員会】六甲摩耶観光推進協議会／摩耶山観光文化協会／灘百選の会／神戸観光局／神戸新聞社　【事務局】神戸新聞地域創造内　e-mail:info-653@kobe-np.co.jp